



第15回医学図書館研究会
(2008年11月6日)

教養教育における 文献検索講習会の試み

滋賀医科大学附属図書館
辰野 直子

滋賀医科大学
SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

1. はじめに
2. 実施に至る経緯
3. 講義内容の検討・講義の実施
4. 課題

1. はじめに

滋賀医科大学(本学)の概要 (学生数等)



- 学部学生数 845名
 - 医学部医学科 585名(うち第1学年86名)
 - 医学部看護学科 260名(うち第1学年60名)

- 大学院学生数
 - 博士課程 120名
 - 修士課程(看護学専攻) 125名

- 教職員数
 - 教員数 約300名
 - 職員数 約700名

2. 実施に至る経緯

本学の年度計画



I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するため とるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

「医療人育成教育研究センター」を設置し、教育の成果・内容・実施体制ならびに学生支援など教育全般に関する事項を審議・統括し目標達成の効率化を図る。

(2)教育内容等に関する目標を達成するための措置

【学士課程】

2)教育理念等に応じた教育課程を編成するための具体的方策

(教養教育)

③情報の収集や発信の能力育成の基礎として、情報リテラシー教育を充実させる。

教養教育における情報リテラシー教育

● 教養教育（基礎学課程）（⇔専門課程）

主として第1学年から第2学年前期まで。

- ・基礎生命科学－医学に必要な基礎知識を身に付ける。
- ・基礎人間学－豊かな教養と倫理観を養う。
- ・「医学概論」等－医学・医療に対するモチベーションを高める。
- ・総合科学－医学にみられる動機づけを行う。
- ・「現代社会と科学」－科学的な思考力や判断力をみがく。

（本学履修要項・講義概要より）

教養教育における情報リテラシー教育

● 本学における従来の情報リテラシー教育

1. オリエンテーション

対象:学部新入生全員(館内見学が主)

2. データベース利用講習 = “専門課程における”情報リテラシー教育

・対象:看護学専攻院生(希望者、応募制)

医中誌Web、CiNii、OPAC等

・対象:看護学科第3学年(講義の1コマ、必修授業)

医中誌Web、CiNii、OPAC等

・対象:医学専攻院生(講義の1コマ)

医中誌Web、PubMed等

・対象:全構成員(希望者)

医中誌Web、PubMed、CiNii、JCR等(約15分でひとつのデータベースを説明する定期講習会“ぷち講習会”) 2008年1月より開始

⇒“教養教育における”情報リテラシー教育を行っていない。

教養教育における情報リテラシー教育の必要性



- カウンターでの対応 / アルバイト学生とのやりとりから
 - ・OPACを使って図書を探すことを知らない学生。(検索できても書架に辿り着けない。)
 - ・図書館に図書が無ければ諦める学生。(ILLの制度を知らない。)
 - ・図書館にあまり来ない学生。(来る必要性を感じない。)
 - ・第3学年になって(専門課程に進み)はじめて、図書館の使い方が分からず困る学生。

教養教育における情報リテラシー教育の必要性



● 教養教育を担当する教員へのインタビューから (教員の声)

- ・レポートの課題を課す際に、図書館の図書が使えることを伝えている。〔図書館との連携ができていない。〕
- ・Web上の情報に頼りがちな学生に図書や雑誌の重要性を伝える必要はある。
- ・学生にも、図書の探し方(=OPACの使い方)程度は知っておいてほしい。
- ・今のカリキュラムでは、図書館を使う、文献を検索する必要性も時間もないのではないか。

教養教育における情報リテラシー教育の 必要性



⇒基礎学課程協議会（教養課程担当教員による会議）
にて、図書館から教員への協力要請。

⇒教員の賛同多く、講義の1コマを使って、文献検索講習会を行う。

- ・2日後の講義「情報科学」（第1学年全員対象）
- ・2時間目－看護学科、3・4時間目－医学科2クラス
- ・講義時間90分中50分程度を使う。
- ・図書の検索方法を主とする。講義「文化人類学」と連携して、「文化人類学」に関する図書を探す課題を課す。

3. 講義内容の検討・講義の実施

講義内容の検討

- 決定事項

- 時間は50分程度。
- 「文化人類学」に関する図書を探す、検索方法を主とする。
- 課題を課し、実習を行う。

- 内容の検討

- カウンターでの対応/アルバイト学生とのやりとりから
- これまでの講習会経験から(ノウハウ、配布資料)

- 図書館の本を探し出す！説明会(50分)
 - 1. 滋賀医大にある図書を探す(20分)

OPACを検索して図書現物に辿り着く、ILLの紹介
 - 2. 大学図書館だけが「図書館」じゃない
他の図書館も使ってみよう(20分)

滋賀県内の図書館のOPACと利用方法の紹介
 - 3. 他府県の公共図書館にも行ってみよう(10分)

京都府立図書館や大阪府立図書館の紹介

講義内容の決定→講義の実施

- 図書館職員3名で担当
 - 配布資料の作成
 - 講義中の説明・実習補助
- 講義の実施
 - 2時間目－看護学科50名
 - 3時間目－医学科39名
 - 4時間目－医学科39名

4. 課題

講義の実施結果

• アンケート結果(110名 / 128名)

・内容について

よくわかった・わかった — 95名

・今後役に立ちそうか

とても役に立つ・役に立つ — 97名

・時間配分について

よかった — 60名

・配布資料について

わかりやすかった — 72名

講義の実施結果

● アンケート結果(110名 / 128名)

(自由記述)

- 今まで探し方が分からなかったもので、説明してもらえてよかった。
- 図書館が「使いやすい」ということが分かり、これからもっと利用したい。
- よく分かる説明だった。今後役に立ちそう。
- 今聞いても忘れそうなので、使う時にもう一度してほしい。
- 一般図書がもっとあればいいと思う。

講義の実施結果



● 図書館職員による反省点

- ・アンケートでも概ね好評であり、実施してよかった。
- ・教員への相談の結果、教員の協力が得られ、講義の中で実施できた。今後も教員と協力して行えばよい。
- ・講義に集中していない学生がいた。学生に興味を持ってもらうような内容、話し方とは。
- ・単に検索語を入れて検索するだけでない、検索方法を教えるべきではないか。

今後の課題

- 従来から行ってきた情報リテラシー教育との関係性
オリエンテーション、データベース利用講習(“専門課程における”情報リテラシー教育)とどう関係づけるか。
- 来年度以降の実施体制
どの講義で行うのか。(シラバスへの掲載)
いつ頃行うのがよいのか。
- * 来年度も講義「情報科学」で行う
4月頃、オリエンテーションと関連づけて行う